2025年6月　第53号

岐阜いのちの電話

スイートピー　H.M.

話してみませんか
あなたの悩み…

相談電話／
058-277-4343

相談時間／
毎日 午後7時から午後10時まで
この他に月・水・金曜日は
お昼12時から午後7時まで
第1・第3土曜日は
午前8時から午後7時まで

電話をお受けしています

フリーダイヤル／**0120-783-556**（無料）毎日午後4時から午後9時まで、及び 毎月10日 午前8時から連続24時間

ナビダイヤル／**0570-783-556**　毎日午前10時から午後10時まで

インターネット相談／ホームページからお申し込みください。

ホームページ／https://gifu-inochi.com/（スマホからは右のQRコードで）

DV 被害者支援現場で思う

片桐　妙子

５０年も前だった。夜になると怒鳴り声と悲鳴が聞こえた。「また夫婦喧嘩・・・」。その後転居したが、そこでは裸足で駆け込んできた女性が激しく震え、顔は腫れあがっていた。女性の言うままタクシーを呼び靴とお金を渡した。今、彼女はどうしているのか？あの頃は夫が妻を殴る事は当たり前で暴力でもなかった。警察に通報しても「家庭内の事には介入しない」と帰った。「夫婦喧嘩は犬も食わない」、「痴話げんか」と言われた時代だった。

その頃、欧米での第二波フェミニズムの拡がりは、日常に潜む性差別を問題化した。家庭に存在する「男女における権力関係」、男女で役割を固定する「性別役割分業」、「女性への暴力」、女性の性と生殖に関する自己決定権「リプロダクティブヘルス / ライツ」に女性たちが声をあげた。1970 年代は、アメリカ全土で CR 運動（コンシャスネスレイジング：意識覚醒）が起こった。女たちが集まり、自分の仕事、恋愛、結婚、子育て、セックス、老い、母娘関係などを語り合った。これ迄、誰にも話せなかった夫からの暴力経験が、自分だけでは無いことを発見し「私個人の問題ではなく社会の問題、政治の問題（パーソナル イズ ポリティカル）」と明確に認識した。夫婦喧嘩は喧嘩ではなく、夫からの暴力による支配。多くの妻が殴られ罵倒され自由を奪われセックスを強要された。その行為に「ドメスティックバイオレンス・DV」と名付けた。

日本では 2001 年 DV 防止法成立まで放置され、今も理不尽な暴力に妻も子も傷つき苦しむも我慢し続ける女性は少なくない。支援者は法や制度に違和感を抱き不条理を訴えるも、無理解に無力感を抱いた。やっと無力と悔しさの根源が見えてきた。英の哲学者ミランダ・フリッカー著『認識的不正義』だ。その著書に対する小宮友根東北学院大学准教授の論考では、「女性の被害や抑圧経験、不公正等を言い表す言葉が少ないから、問題が問題だと認識されにくく、対処もされないという問題を引き起す」と。女性である事だけで、理由なく被害や困難等に遭うことに目も向けず問題にさえしないのは、根拠なく社会的文化的に作られた性差別（ジェンダー）が原因。加害者に男性が多いのは、暴力や支配が男性ジェンダーに近いからで、女性ジェンダーは女性を被害者にする。世界経済フォーラム 2024 年調査では、日本の女性差別ランキングは 146 ヶ国中 118 位と最悪。

2000 年前後には DV、セクハラ、マタハラ、パワハラ、カスハラ、ヤングケアラーと、概念と言葉が聞かれるようになり、法や制度ができ支援が始まった。合意のない性行為、望まぬ妊娠は女性の人権侵害で暴力とされ、数年前には避妊に協力しないセックスは「多産 DV」と名付けられた。今も名もない多くの困難、被害、不公正がある。名付けが急務。

DV 被害者の CR に立ち会っているが被害者の語りに圧倒される。DV という言葉を知っている人は多いがその実態を理解している人は少ない。手をつなぐ女たちの会は、行政主催の「ウーマンフェスティバル」に被害者の声を展示した。

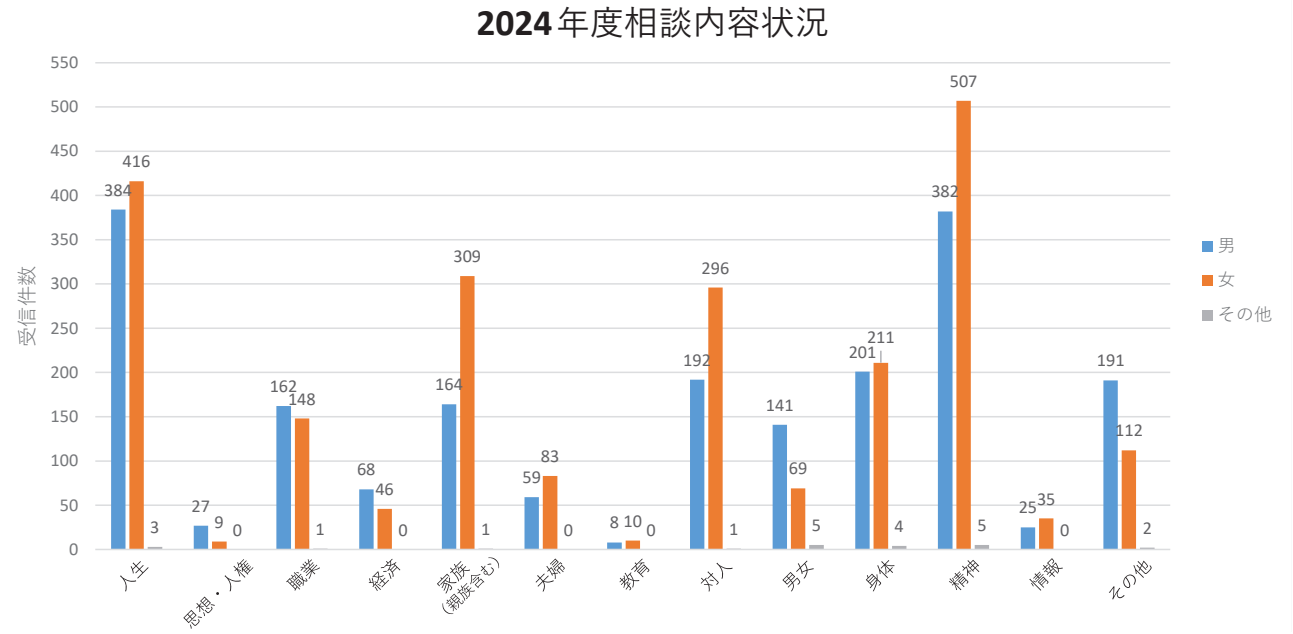
・私はニワトリ以下らしい。もはや人間ですらない。そんな私って、どんな存在として生きたら良いの？考えたけど、分からなかった。
・そのうち殺されるかもって思ったけど、殺されてＤＶの苦しみがなくなるならそれでも良いかとも思った。
・がん宣告が嬉しかった。もう家に帰らなくても良いと思った。「早く退院できるよう頑

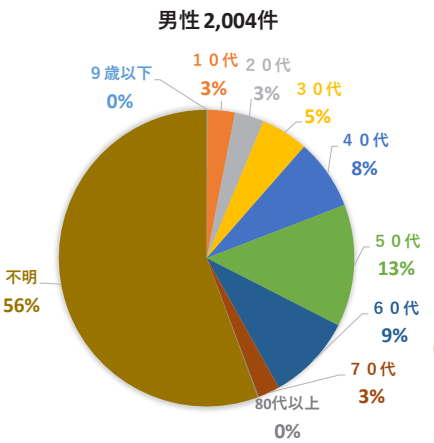
張りましょう」と医師は言ったが、治らなくても良い。
・夫の暴言と暴力、避妊もせず中絶の繰り返し、４２年間怯えビクビクしていた。
反響は大きく釘付けとなる人、被害者と言う女性は、「知らないのは世間だけ」と皮肉を込め薄笑い、男性は「男が読むべき」と、遠巻きに眺める人。婚姻経験がある女性４人に１人が被害者となる日本社会。人権を奪い犯罪とも言える DV に有効な手立てが見つからない社会は、何と名付けよう。

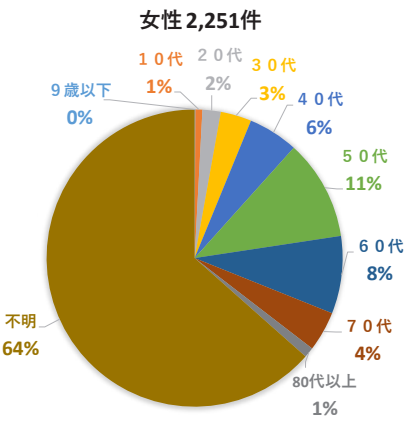
（NPO 法人手をつなぐ女たちの会 共同代表　当協会研修講師）

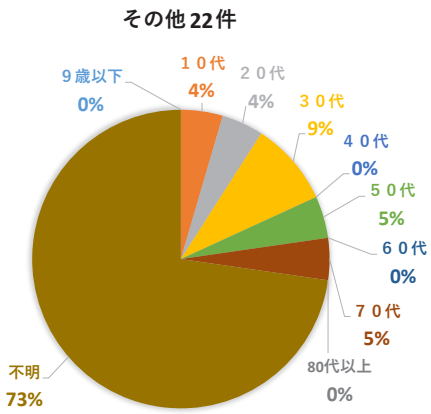
2024 年度岐阜いのちの電話統計

岐阜いのちの電話が 2024 年度の１年間に受信した件数は、5,501 件でした。そのうち相談員と会話のなかった無言の 1,224 件を除く相談件数は、4,277 件で、男性が 2,004 件（46.9%）、女性が 2,251 件（52.6%）その他 22 件（0.5%）でした。
相談内容は昨年度と同様に精神に関することが最も多く、人生に関することがそれに続きます。年齢は男女とも 40 代から 60 代が多い傾向です。年齢不明の方が多いのはこちらから特にお聞きしないのでわからないためです。
また、インターネット相談は 170 件受信し、それぞれのご相談に返信をしました。









相談員の声

父との別れ

今から、50年位前の春の事です。突然、父が病気になり入院する事となりました。しかもその病気は既に進行していて、父の余命は幾何も無いというのです。突然、降りかかった思いもよらない状況の中で、混乱しながらも私は母と共に病院へ通い父に付き添っていました。

父は日々、体力が落ちて行き、強い痛みに苦しむようになりました。痛み止めを注射してもらうと少しの間痛みが治まっていましたが、すぐに痛くなってくる状態でした。

そんな中、父は自身の病気について何度も母や親せきの方に訊ねていました。「自分は本当は、がんなのではないのか？」と。日々痛みが強くなる中で、胃に潰瘍があるから治療するという説明に疑問を感じていたのでしょう。

当時は本人にがんの告知はほとんどなされる事はなかったように思います。ましてや父の様に、病気が解った時点で手の施しようがない場合、本人への告知はより難しかったのではないかと思うのです。

それでも父は少しでも体力をつけて治したいと、食べる事が難しくなっていたのですが、飴ならなめられるとなめたりして頑張っていました。

そんな日々、私は父に本当の事を伝えなくて良いのかと悩んでいました。母や叔父に相談すると「話さない方が良い」と言われました。父に話しても、本人はショックを受けるだけで、家へ帰る事も出来ず何も出来る事も無く、本人に残された時間も少ないこの段階ではどうする事も出来ない。そんな思いだったのでした。

あの時から50年の月日が過ぎた今ではがんの末期になられても、自分らしく生きる事を考えていける環境が社会の中にあります。でも当時は、医療の専門家でもない家族は本当にどうする事も出来なかったのでした。

そんな中、父の体調は益々悪化していき昼夜の区別なく痛みに苦しみ、ゆっくり眠る事も出来ませんでした。数日後、私と叔父が付き添った夜、父は久しぶりに穏やかに眠る事が出来ていました。私と叔父は寝ている父を見つめ、良かったと心から思いました。

そして、次の日の早朝、目覚めた父の顔は蒼白で弱弱しく、前日までの様子とは一変していました。私はその瞬間、「父とお別れなのだ」と思いました。ほどなく検温にみえた看護師さんが、父を一目見て主治医の先生に連絡されました。先生はすぐにみえて父を診察され、廊下へ出られるといつもの様にそこで待ってみえました。私が傍らへ行くと母を呼ぶようにと言われました。別室で先生から説明を受けて、やはり父は今日亡くなるのだと覚悟した事を憶えています。その後、父は痛みを訴える事無く眠っていました。「お父さん」と声を掛けると「今、やっと眠れるようになった。」と話し目を閉じて行きました。

父が亡くなった後も私は、あれで良かったのかと悩んだりしながらも、生きようと頑張っていた父の姿を思い出して励まされて、生きてきたのだと思います。

今年もまた、春が廻って来ました。一年中で一番緑の美しいこの季節、父に会いに行ってこようと思っています。

（K.H.）

「岐阜 いのちの電話協会」の活動報告（2024年度）

▣ 2024年4月～2025年3月の相談活動は次のとおりでした

⑴電話による相談：4,277件（着信件数は5,501件）
⑵インターネット相談：170件

●相談員の研修

⑴全体研修：3回　外部講師による研修
⑵個別研修（個人及びグループ）：6回

●新規相談員の養成（座学15回と実習）

・受講者：16名

▲ 養成講座の様子

●広報及び公開講座の実施

⑴公開講演会：1回
（2月、講師 岡村晴美氏）
⑵広報誌の発行：2回（6月、12月）
⑶ホームページによる発信
⑷パネル展
・ハートフルフェスタ2025
1月、ハートフルスクエアG（岐阜市）にて
・NPO活動パネル展
2月、メディアコスモス（岐阜市）にて

●他機関との連携

・岐阜県犯罪被害者支援活動推進協議会
・岐阜県孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム
・岐阜県自殺総合対策協議会
・郡上市フリーアクセス自殺予防電話相談事業

新規活動のお知らせ

2025年7月1日から次の時間帯にも電話相談を始めます。
毎週 月・水・金曜日のお昼12時から午後7時まで
TEL 058-277-4343
どうぞご利用ください。

2024年度財務報告

【経常収益】

項目	補助金・委託費等	会費	賛助会費	寄附金	講座受講料	受取利息等	合計
(円)	4,533,163	396,000	210,000	585,234	390,000	2,351	6,116,748

【経常費用】

項目	事業費	管理費	合計
(円)	4,820,541	3,138,476	7,959,017

収支差額
△1,842,269

2024年度単年度において180万円余の赤字となりました。事務所の引っ越しがあり、その費用がかかったとはいえ経済的に困難な状況は何とかしなくてはいけない大きな課題です。

寄附・賛助会費ありがとうございます

次の皆さまから岐阜いのちの電話協会にご支援を頂きました。心から感謝を申し上げます。

【個人ご寄附・賛助会員】2024 年 11 月 1 日～ 2025 年 4 月 30 日領収分　　**５０音順敬称略**

伊藤 里美　井上 久美子　大西 みゆき　加納　博　川本 侑子　北谷 雅春
後藤 道子　子安 崇雄・愛子　鈴木 信子　南部 紀子　日比 祐子　福井 真一
伏屋 孝子　古川 芳子　松井　勲　三尾 美紀　安江 悦子　安田 良江
山本 秀樹

【法人・団体・グループ】2024 年 11 月 1 日～ 2025 年 4 月 30 日領収分　　**５０音順敬称略**

有限会社三進社印刷所　医療法人清澄会 不破ノ関病院　日興製薬株式会社
日本キリスト教会 岐阜教会　美濃大野ライオンズクラブ

※ 2025 年 5 月 1 日以降にご支援賜りました方々のお名前は次号の広報誌で報告させていただきます。
※広報誌にお名前掲載を希望されない方は事務局までお知らせください。

～ みなさまのご支援を ～

毎年ご寄附を続けてくださる賛助会員、一般のご寄附のご協力をよろしくお願いいたします。

● NPO 法人岐阜いのちの電話協会の賛助会員

個人１口　A　10,000 円　／　B　5,000 円　／　C　3,000 円
団体１口　10,000 円

【振込口座】

◎ 郵便振替　00830-9-124128
◎ 銀行振込　ゆうちょ銀行　店名二四八　店番 248　（普）1969322
十六銀行　島支店　店番 115　（普）1161276
☆口座名義はいずれも　特定非営利活動法人岐阜いのちの電話協会
トクヒ）ギフイノチノデンワキョウカイ

編集後記

片桐先生の巻頭文を読んで、ＤＶが甚だしい人権侵害であることをあらためて認識しました。また、ＤＶをはじめとするハラスメント行為の多くは想像力の欠如とつながっているのではと思いました。自分も含めた反省なのですが、こちらのなしていることが相手をどのように傷つけているかについてまったく鈍感なのです。

私たちの活動においては、電話をかけてこられた方の気持ちへの共感がなければ何も始まりません。そして共感は、想像力から生まれるような気がします。相手の気持ちを我がことのように感じられる想像力を培っていきたいと考えています。（Ｉ．Ｔ.）

特定非営利活動法人
岐阜いのちの電話協会
〒500－8387　岐阜薮田簡易郵便局　局留
TEL 058－273－5387　FAX 058－201－1922
発行人：杉田　憲夫　　編集：広報委員会
印刷：㈲三進社印刷所
❑岐阜いのちの電話協会ホームページ　https://gifu-inochi.com/　❑メール・アドレス　sec@gifu-inochi.com